

設立 平成24年 5月15日  
開塾 平成24年 9月 8日  
発行 令和 7年 9月13日  
(148号)

# 中之島ニュース

[事務局] 〒567-0861  
茨木市東奈良2-7-10  
人間学塾・中之島  
事務局 古田修平  
編集長 西村俊喜

森信三先生は『修身教授録』において「その人がどんな人物なのか」という「人を知る基準」を明確に掲げておられます。①いかなる人を師匠としているか②いかなることを人生の目標としているか

③今日までいかなることをしてきたか  
④愛読書がいかなるものか  
⑤いかなる人を友人とするか

この五つを調べたならば、その人の人間、ひいてはその人の進む道まで見当がつく。そしてこの五つは①の「師を持つ」



「未来の塾を創造する  
副代表 古田修平

## 第十四期入塾 おめでとうございます

今期新規にご入塾された皆様、前期からご継続された皆様、またお久しぶりに戻ってきてくださつた方々、どなたも期待に胸をふくらませておられることがあります。ここから始まる一年間、新たな発見や気づき、魂の出会いの時間となりますことを自信を持つてお約束いたします。

## 人物を知る基準 代表 中川千都子



祝人間学塾・中之島  
第十四期開講！

当塾は十四期まで続いた伝統ある学び  
舎・天分塾から引き継ぎ今日までやつて  
まいりました。いよいよ本期は、人間学  
塾・中之島として天分塾が重ねた年数と  
並ぶ十四年目を迎えます。いまや「人間  
学の名門塾」とまで称されるようになり  
ました。これも真摯に学び、日々の実践  
を続けてこられた、塾生お一人お一人が  
持ち場を持ち場で花を咲かせてこられたか  
らこそ。

この新たな一年もたくさんの方と実り  
の一年となりますよう、この場に集う皆  
様とさらなる学びを深めてまいりたいと  
思います。一年後の花盛りを楽しみに。

「塾生の 塾生による 塾生のための  
塾」を掲げて、人間学塾・中之島はスター  
トしました。

今、塾は大きく変化しています。特に塾生の皆様の塾への取組み（たとえば、講座への受講の姿勢、グループ討議での積極的な参加、宿泊研修の積極参加等）が塾全体の活動を盛り上げていて原動力となっています。この塾が、継続できていることは、塾生の皆様と、世話人の皆様の同じ「想い」を共有できていることの成果だと思っています。

人間学塾・中之島は、前身である天分塾（十四期で終了）の後、天分塾の願いを「塾是・三大綱領」に込めて創塾し、本期で第十四期を迎えることができました。第八期にはコロナ禍があり、塾の存続も危ぶまれた時期もありましたが、いろいろな困難も乗り越え、天分塾の歴史に並ぶことができました。天分塾を創塾されました、鈴木民二塾頭、西中務副塾頭、寺田一清顧問の三先生方も、宇宙にお帰りになりました。天から人間学塾・中之島の行く末をあたたかく見守つて頂いていることと思っています。



### 「持続継続の功德」

**副代表 松本 学**

人間学塾・中之島への「入塾、誠におめでとうございます。」

いよいよ前身の天分塾に並ぶ第十四期をむかえ、森信三先生、そしてその教学を繋いでくださった寺田一清先生はじめ、多くの先生方の大恩に対する畏敬と感謝の念に堪えません。

天分塾第十四期の入塾式に際して「天分塾ニュース」に寄せられた寺田一清先生の思いを読み返しますと、鍵山秀三郎先生から授かつた「人間は時間の洗礼を受けねばならぬ」についてご紹介、「すべきにおいて持続継続の功德を、言葉をかけてお解きください」と思われます」と解説されています。

二〇二五年は、森信三先生が生前に予言された、世界が日本の底力を認めざるをえなくなる二〇五〇年に向けて再び立ち上がる兆しを見せることで、世界が日本の大なるスタート地点です。学びに触れた、ご縁ある一人ひとりが持続継続の功德を積み、先師や諸先輩方が命をかけて繋いでくださった「念」をしっかりと繋いでいこうではあります。

二〇二五年は、森信三先生が生前に予言された、世界が日本の底力を認めざるをえなくなる二〇五〇年に向けて再び立ち上がる兆しを見せる大なる一大事です。学びに触れた、ご縁ある一人ひとりが持続継続の功德を積み、先師や諸先輩方が命をかけて繋いでくださった「念」をしつかりと繋いでいこうではあります。

第十四期の宿泊研修と記念イベントのご案内  
内です。年間のスケジュールの中にご予定ください。

（ ）は主な役割分担  
第十四期の世話人につきましては、次のとおりです。何卒よろしくお願ひいたします。ご相談等、お気軽にお声かけください。

（ ）は主な役割分担

### 第十四期宿泊研修と記念イベントのご案内

秋季宿泊研修 令和7年11月15日(土)～16日(日)

会場 三重県 伊勢修養団



#### 主なスケジュール

一日目

午後 武田数宏先生の講座  
夜 神籠石（五十鈴川）

二日目

朝 伊勢神宮正式参拝  
午前 山崎政弘先生の講座

春季宿泊研修 令和7年4月11日(土)～12日(日)  
会場 愛媛県 奥道後「壱湯の守」

#### 主なスケジュール

一日目

午後 白駒妃登美先生の講座  
夜 交流会

#### 顧問

「新」

清水 正博  
細川 三郎

#### 代表 副代表

古田 修平(事務局)  
松本 学(会計)

加藤 昌夫(撮影)  
近藤 宏枝(読書会)

西村 俊幸(編集)  
福本 浩之(運営)

嶋田 泉(運営)  
石黒 尚(総務)

### 第十四期世話人体制



塾生募集中

途中入塾も受け付けています。  
気になるの方に、この学び舎をご紹介ください。

# 祝 第13期 人間学塾・中之島 門出の日



揮毫／近藤宏枝世話人

令和7年8月9日(土) 第13期人間学塾・  
中之島卒塾式が執り行われました。  
その後の懇親会も盛会となりました。



皆勤賞 精勤賞 おめでとうございます

塾生代表スピーチありがとうございます  
吉持豪人塾生・上田賀代塾生・葛西友子塾生

懇親会ありがとうございます  
素敵なお演奏など感動・感謝！



**「時を守り、場を清め、礼を正す」こと**

森信三先生の教えに、次のようなります。「たしなみとは、真に身についた教養といふことです。たとえば、いわゆる学歴の上ではBの方が上でも、もしたしなみといふ点に欠けていたとしたら、周囲の人びとは、いぞ敬意を抱くはずです。そしてたしなみはそれには、いぞ敬意を抱くはずです。その人のからだに根ざすものですから、細工が利かないのです。さて先日、ある研修会に参加した時の事です。女性の講師の先生が、ひざ丈までに素足にサンダル履きで登壇されたのです。お姿を鑑みますと、どうしても内容が半減されてしまうのであります。お話を素晴らしくしてお聞きください」といふのです。女性の講師の先生が、ひざ丈までに素足にサンダル履きで登壇されたのです。お姿を鑑みますと、どうしても内容が半減されてしまうのであります。お話を素晴らしくしてお聞きください」といふのです。

**次月案内****第十四期 第一講**

◇ 日時 令和7年10月11日(土)  
午後1時～

◇ 場所 大阪大学中之島センター  
10階 ホール 34

◇ 講師 浅井周英先生  
◇ テーマ「道縁に導かれて」



小中学校の教員の後、和歌山市教育長や助役を務められ、「実践人の家」理事長としてもご活躍されました。また、教円幼稚園の園長として、立腰教育を実践されています。

**人間学塾・中之島  
グループラインのご案内**

塾生の方用に、LINEを運用しています。  
(講座案内・出欠確認等の連絡用)

※未登録の方は世話人まで  
グループラインにご招待させて  
いただきます。  
なお、個人的な投稿や早朝・深  
夜の投稿などはお控えください。

**お願ひ**

- ① 中之島ニュースは塾生・登録塾生の方用に作成しております。  
事務局・編集部に無断で転載や特にコピーなどを配布することは、ご遠慮ください。  
よろしくお願ひします。
- ② 編集部アドレスは下記のとおりです。  
事務局とは異なります。  
感想文・文集・投稿等はこちらに↓  
お願ひします。  
[2012nakanoshima@gmail.com](mailto:2012nakanoshima@gmail.com)

編集後記

第十四期ご入塾。誠におめでとうございます。継続して入塾された方、また本期から入塾された方! ようこそ人間学塾・中之島へ。一年間、何卒よろしくお願ひいたします。素晴らしい講師の方、そして塾生の皆様との出逢いにドキドキ・そしてわくわくです。

第十三期卒塾式も感動と感謝でした。外は相変わらずの猛暑でしたが、卒塾式はそれ以上に熱いものでした。今年の卒塾記念品はステンレスボトル。森信三先生のお言葉「一つ一つの小石をつんで」を記しています。ひとつひとつコツコツと学んでまいりましょう。さて、今期も編集をさせていただくことになりました。このニュースを皆様方と一緒に作ってまいりたいと存じます。皆様のご協力をどうぞよろしくお願ひいたします。

編集長 西村俊幸